

週刊今株ドットコム

2009年

12月
19日号

勝負は1週間～4週間! 短期投資で儲けるための最新銘柄情報を毎週末提供!

今年も残りわずか、米国株に翻弄される展開

先週は、16日（水）の日経新聞一面に、「銀行の新資本規制延期」という見出しが踊り、メガバンクの相場つきが一変しました。この日は前日のニューヨーク・ダウが46ドル安だったことから、このニュースがなければ日経平均株価や「ミニ先物」も小安く始まったはずですが、個別に15日（火）の終値と16日の始値を比べてみますと、みずほが158円から192円（上昇率21.5%）、三井住友が2,650円から3,010円（同13.5%）。これに対して三菱UFJは448円から483円と7.8%の上昇にとどまりました。3銘柄の上昇率の凹凸にも驚きますが、いずれにしても売り方は大打撃をこうむり、買い方は快哉を叫んだことでしょう。

今週は4営業日となりますが、また大きなニュースに翻弄されるかもしれません。

「週刊・今株ドットコム」編集部

CONTENTS

週刊・今株ドットコム 2009年12月19日号

| | |
|-------------------------------------------|---|
| 相場の裏オモテを知り尽くした経済評論家 杉村富生が推奨する今週の特選銘柄 | 2 |
| ニュースも材料も必要なし テクニカル指標で見つける大ヒット候補株 | 3 |
| 的中率抜群の株式分析ソフトで儲ける 本誌が厳選する今週の妙味銘柄 | 4 |
| 買い銘柄と売り銘柄のサヤで儲ける 今週のベアトレード大作戦! | 5 |
| ニューヨーク・ダウをサキヨミする! | 6 |
| 「ミニ先物」をサキヨミする! | 7 |
| Mr.ストップ高天海源一郎の「儲けてこそ、株!」 column カラ売り専科 | 8 |
| 注目銘柄チャート分析 タラレバ編集後記 | 9 |

(注) 本誌は、株式投資の銘柄や投資手法に関する情報提供を目的としたものです。掲載された各銘柄や投資手法にはそれぞれの投資リスクが存在しますので、投資に関する最終的な確認および決定は、投資家ご自身の判断でお願いします。なお、実際の株式投資における損失につきましては、株式会社実業之日本社および編集協力企業、本誌執筆・編集スタッフ等はいっさい責任を負いかねます。また、業績数字や株価などの各データにつきましては、できるかぎり最新のものを正しく掲載するよう努力いたしますが、その正誤につきましても投資家ご自身によるご確認をお願いいたします。

*チャート提供/編集協力：(有)増田経済研究所

(注)「増田チャート」の問い合わせは、以下までお願いします。
homepage@masudaasi.co.jp Tel:045-581-2408 Fax:045-581-2444

相場の裏オモテを知り尽くした経済評論家
杉村富生が推奨する今週の特選銘柄



杉村富生 ● 経済評論家

やはり、個人投資家が主役の相場？

足元、短期的には個人投資家が主役の相場であろう。外国人はファイナンスの4割強を引き受けているものの、市場経由の買いは限定されている。

国内の機関投資家、法人は規制強化、およびIFRSなどの導入を背景に、株式資産の圧縮を余儀なくされている。

その点、個人投資家はまだ元気である。従って、2010年相場では材料株、小型株が人気化するだろう。

杉村富生の特選銘柄① **セルシス**

3829 名証セントレックス 売買単位1株

大化けの可能性を秘める 携帯電話の閲覧ソフト、マンガ、アニメの制作ツールを開発するなど、ユニークなビジネスを展開中である。業績は好調に推移している。2010年10月期、2011年10月期ともに史上最高の決算となろう。株価は、12月11日に125,500円の安値をつけたが、その後は切り返している。8月27日には265,000円の高値がある。大手証券が注力の構えを見せており、先行きが楽しみだ。

売買メド
 直近値 ● 168,000円
 目標値 ● 200,000円ガラム



杉村富生の特選銘柄② **ドン・キホーテ**

7532 東証1部 売買単位100株

長崎屋の業態変換に成功、業容拡大 デフレ→`安さ`がキーワードを追い風に順調な業績拡大を続けている。連結1株利益は2010年6月期が166円、2011年6月期が182円と予想されている。長崎屋を業態変換させた「MEGAドンキー」が伸びているほか、リストラ効果が予想以上に寄与している。株価は11月4日に2,540円の高値をつけたあと調整しているが、この押し目は買える。先の高値奪回が見込める。

売買メド
 直近値 ● 2,100円
 目標値 ● 2,500円



ニュースも材料も必要なし
テクニカル指標で見つける大ヒット候補株

担当/マーケット・アナリスト 三上 守

トレンドラインを引いて相場の変わり目を知る

トレンドと言えば、やはりトレンドライン。相場の基本を勉強するためには、格好のツールだと言えるだろう。基本は上昇トレンドと認められる場合には、株価の下値同士を結んでいき、下降トレンドと思えるときには、逆に上値同士を結ぶこと。ローソク足の影を結ぶことが多いが、実体部分を結ぶべきという人も。人それぞれの相場の見方だが、初心者はあまり難しく考えないで、とりあえずラインを引いてみることをお勧めする。

大ヒット候補株① キッツ

6498 東証1部 売買単位1,000株

75日線にも注目 10月21日につけた高値507円を起点に、403円まで下げたあとの反発の頂点である12月7日の449円まで下降トレンドのラインを引いてみた。そこからは横ばい状態であるが、価格ではなく時間でトレンドラインを上抜けたというサンプルだ。上値圧迫は小さくなったが、さらに75日移動平均線の上に顔を出している点にも注目したい。再び75日線が下支えとなる好循環を取り戻すだろう。

売買メド
 直近値 ● 455円
 目標値 ● 480円



大ヒット候補株② 日立ハイテクノロジーズ

8036 東証1部 売買単位100株

トレンドラインをブレイクで急騰 これも下降トレンドラインをブレイクしてきた銘柄。9月25日の1939円と10月23日の1864円を結んで、そのまま左に延長した。17日の急騰は、トレンドラインをブレイクした勢いが表現されている。超短期的には一度調整を入れると思うが、この週の急騰で200日移動平均線をブレイクしてきたことに注目して欲しい。200日線はやや下向きだが、フラット→上昇を予感させる。

売買メド
 直近値 ● 1,808円
 目標値 ● 1,850円



的中率抜群の株式分析ソフトで儲ける 本誌が厳選する今週の妙味銘柄

担当/本誌 株式分析ソフト研究班

「買いサイン」点灯銘柄の大平洋金属と高値水準のトレンド銘柄

株式投資で儲けるためには、なんといっても銘柄選びが基本となる。しかし、銘柄検索には、相当程度の時間と労力を要するため、決して楽な作業ではない。そこで本誌が注目したのが、市販の株式分析ソフト「増田足チャート」を使って妙味銘柄を見つけ出すこと。このソフトには、「買いサイン」点灯銘柄や上放れ銘柄などのほか、下放れ銘柄といったカラ売りに適した銘柄も適時配信しているので、実戦投資の参考になる（お試しソフト1カ月間無料＝「増田足」で検索）。

本誌厳選妙味銘柄① 大平洋金属

5541 東証1部 売買単位1,000株

ニッケル価格が連騰 12月17日に、「増田足チャート」の「買いサイン」点灯銘柄となった株。この日当社株は前日比7%を超える上昇率。これは日経225採用銘柄のトップで、出来高も696万株と久々の大商い。今期業績は大幅な減収減益見通しで、株価は下げ続けた。だが、もとよりこの株は業績より、ニッケル市況に左右されることで知られている。ニッケル価格が上昇気配のこは、久々の買い場到来と見る。

売買メド
直近値 ● 629円
目標値 ● 700円以上



本誌厳選妙味銘柄② トレンドマイクロ

(カラ売り=信用の売り建て銘柄)

4704 東証1部 売買単位100株

指数にツレ高 12月17日に、「増田足チャート」で利食い売りサインが点灯した銘柄。原則的には利食い売り＝カラ売りとはされていないが、過去のパフォーマンスを検証すると、目的的に利食い売り銘柄が下落する率は高い。チャートは典型的なボックス型で、9月高値の3,580円と11月27日の安値3,050円の値幅は530円。日経225採用銘柄であることから、指数にツレ高しているが、ここは売りを仕掛けていきたい水準。

売買メド
直近値 ● 3,490円
目標値 ● 3,450円以下



買い銘柄と売り銘柄のサヤで儲ける 今週のペアトレード大作戦

担当／本誌・ペアトレード研究班

マーケット・リスクをヘッジしながら儲ける方法

ペアトレードとは、ある銘柄を買いと同時に別の銘柄をカラ売りする投資手法。「ロング・ショート」などとも呼ばれる、個別銘柄を使った一種の裁定取引だ。この手法の利点は、マーケット・リスクを避けられることで、安全性の高さが魅力。ただし、買い銘柄と売り銘柄の売買代金(株価×株数)を同程度にすることが必須条件となる(例:買い銘柄約100万円+カラ売り銘柄約100万円)。

ペアトレード銘柄① 日本オラクル

(買い銘柄)

4716 東証1部 売買単位100株

データベース管理ソフトの大手 減収減益が当たり前のなか、業績は安定している。当社の今期業績は2.5%増収かつ連結経常増益の見通し。増益率はわずかだが、連結経常利益は400億円を見込んでいる。驚くべきは配当利回りで、今期も170円配当が実施される公算が高く、株価3,880円なら予想配当利回りは4.4%もある。株価は12月11日の安値3,810円から水準訂正を始めているが、どう見ても出遅れが著しい。

売買メド
直近値 ● 3,920円
目標値 ● 4,000円抜け



ペアトレード銘柄② イオン

(カラ売り=信用の売り建て銘柄)

8267 東証1部 売買単位100株

上値は限定 デフレ不況による雇用不安と年取減で、消費低迷は深刻の度を深めている。スーパーは高級品を扱うデパートよりはマシだが、それでも昨今の節約志向と売価下落によるダメージは厳しい。流通の勝ち組である当社でさえ、株価は低落の一途。11月27日の安値670円から12月9日によく782円まで戻したが、この日に形成した長い上ヒゲ陰線が象徴的。日経平均株価が堅調に推移した先週でさえ、週足は陰線。

売買メド
直近値 ● 714円
目標値 ● 670円近辺



ニューヨーク・ダウをサキヨミする!

担当/チャート分析家・石丸雄治

25日移動平均線を割り込むも、一進一退の攻防か

ニューヨーク・ダウは先週、12月14日に10,514ドルまで上値を追ったが、これは12月4日につけた年初来高値10,516ドルにわずか2ドルではあるが届かなかった。結果的に15日=49ドル安、16日=11ドル安と来て17日が一気に133ドル安。この3日間の下落幅は193ドルとなり、目先チャートの的にはダブル・トップを形成する可能性が出てきた。

「増田足」の先読みチャートを見ても、3日足と25日足がブルーで目先調整含みの展開が予想される。17日現在の25日移動平均線は10,386円で、ここを大きく割り込んでいくようだと、トレンド転換の恐れもある。



「ミニ先物」をサキヨミする!

担当/チャート分析家・石丸雄治

米国株の動向が懸念も、押し目は買われる地合い

先週号では、「スピード調整後のもみ合いから強含みの展開」と予測した。12月14日(月)、10,115円で始まった「ミニ先物」は、一瞬10,000円の下値を見たが、17日(木)の前場で10,260円をつけ、先週の高値10,210円を更新した。ニューヨーク・ダウが反落したのにもかかわらず、上値を追ったのは「銀行の新自己資本規制の延長」が報道されたことが大きい。

今週は、「増田足」先読みチャートを見ると、3日足と25日足がブルーで目先調整含み。懸念されるのはニューヨーク・ダウの動向だが、25日移動平均線と75日移動平均線を上回っているだけに、押し目は買われる地合いだ。



Mr.ストップ高 天海源一郎の「儲けてこそ、株！」



天海源一郎 ● 株式ジャーナリスト、個人投資家。

『年末ピン』の可能性がないわけではない

今年、日経平均が安値をつけた日は、①3月10日と②7月13日、そして③11月27日だ。①と②の時点からその後の25日移動平均線とのプラスかい離は①13.52% (3月26日)、②7.24% (8月11日) だった。もし前回並みに反騰するのであれば、25日線とのかい離が10%程度に広がってもおかしくはない。直近の25日線の水準を勘案すると、10%かい離は10,750円近辺になる。なんと年初来高値更新が視野に入る。

天海源一郎の今週のイチ押し銘柄 日本海洋掘削

1606 東証1部 売買単位100株

値動き良好の新規上場株 12月17日に東証1部に新規上場。国内で唯一、海底石油や天然ガス田の試掘などを手掛ける。上場前から評判が高く、公開価格3,800円に対し、5,000円の初値がついた。翌日も5,680円からスタート、公開初日の高値を軽く更新し、6,000円を上回る場面もあった(安値5,610円、高値6,070円)。典型的な「飛び乗り&飛び降り」投資が効果を発揮する銘柄ではないかと考えている。



売買メモ
直近値 ● 6,050円
目標値 ● 買値より400~500円上



担当/本誌・カラ売り銘柄発掘班

利食い売りに押される展開の日本電気硝子

日本電気硝子(5214)は、NEC系の液晶基盤メーカー。親会社のNECが下値を切り下げているのに対して、こちらは12月15日に7月24日の高値を更新、輸出関連としては珍しい上値切り上げ型。今期業績も、連結経常利益が前日比33%減益見通しながら643億円と高水準。親会社のNECは連結経常利益が400億円予想で、これをはるかに凌ぐ孝行ぶり。中長期投資なら押し目買いを入れたところだが、12月15日に長い陰線を引き、17日も上ヒゲ陰線。18日も日足陰線となり、これで4日連続陰線。目的的には利食い売りが続くと見られ、上値も限定的なこはカラ売りを仕掛けてみたい。

成功銘柄チャート分析

杉村銘柄の不二家が6%高!



タラレバ編集後記

先週も大きなニュースに翻弄された1週間でした。「銀行の新資本規制延期」報道で急騰したメガバンクですが、みずほ株を15日の終値158円で1万株買って、16日の寄値192円で手仕舞いしていれば34万円の利益となっていた計算です。しかし、逆に1万株カラ売りしていれば、34万円以上の損失となっていたわけですから

(取引コスト除く)、やはり株式投資はハイリスク・ハイリターンなものだと痛感しました。

ところで先週、日経平均株価は3週移動平均線が13週移動平均線を上抜きました。米国株の動向が気になりますが、週足的には久々のゴールデンクロスということで年末高局面があるかもしれません。